

ニーズレター

発行日 2018年 7月30日
特定非営利活動法人 グループホームネット香川



男木島灯台

.....

もくじ

○ 理事長巻頭言	2
○ 総会報告	3
○ 長期休日の支援体制変更	4
○ 入居者の声	5-7
○ 事務局だより・編集後記	8

理事長巻頭言

グループホームの現状と今後

理事長 細谷 要一

この度の豪雨により、犠牲となられた皆様のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。

先日は、会員皆様のご協力をいただき無事に総会を終えることができましたことを感謝申し上げます。

その後開かれた理事会にて理事代表に選出されました。これから2年間、力不足のところはより一層みなさまの力をお借りすることによって、役員・職員皆でこの会の運営を進めていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

グループホーム事業では、病気や障害があっても、自らが生活の主体となり希望に向けて歩みが進められるよう棲家と生活支援サービスを提供しています。しかしグループホームの現場では、今総会での2017年度事業報告に取り上げたように、入居者の内科疾患等への支援が課題となっている一方、ケースは多くはないですが精神症状再燃によって生活上の困難が大きくなって、スタッフの側も支援方法に苦慮するという状況が続いています。

今年度は、入居者個別のニーズをよりの確に捉え、適宜必要な支援ができるよう入居審査・体験入居の方法やスタッフ研修方法を含めて再検討し、支援の質を向上させていきたいと思います。それによりこれまで以上に安心・安定した生活環境に改善され、グループホームネット香川の目指すものになっていくと考えています。

現在のグループホームの運営は、2013年施行された障害者総合支援法の『訓練等給付（共同生活援助（グループホーム））』という枠で、障害福祉サービス提供に係る給付（補助金）を受けています。今年度報酬改定があり、補助金の一部カット（6.2%減）という難題が課せられました。厚労省はこの改定で、福祉サービスの報酬を入所施設系に増額、居住系（グループホーム等）には減額という見直しをしました。我々としては、今回のこの方針に異議を唱えるところですが、この減収分は支援サービスの向上によって入居者の生活が安定し、新しい利用者も増加することによってカバーしていけるものと考えています。



総会報告

事務局 増田 周作

2018年6月7日（水）に円座町の当法人事務所にて、2018年度定期総会を開催しました。正会員21名のうち18名の参加をもちまして、無事に終了することができました。事務局からもこの場をお借りし、改めまして会員の皆様、関係者の皆様のご支援とご協力に感謝申し上げます。

2017年度の総会では、理事長の巻頭言の中で報告されている通り、これまでのグループホームの支援内容、2018年度の展望が話されました。

正会員の皆様には、事業報告書をお送りして活動内容の詳細をご報告していますが、グループホームの活動が中心となっていますが、当法人の活動に興味ある方は是非、当法人の正会員になっていただければと思います。

2017年度は、初めてのこととして、法人全体で忘年会を開催しました。ホームワーカーのサポートのもと、各グループホームごとに入居者がそれぞれの特色を生かし、積極的に手作りの食事を準備して、忘年会を盛り上げてくれたことは前回の二スレターで報告した通りです。今年度は会員の方にも参加してもらえるように準備ができたと思っています。

2017年度末に、事務局長が都合により退職されたことを受けて、4月からは、理事会がその役割を担っており、総会では改めて事務局長を置くことを検討することが話されました。

最後に、今年度は役員改選の年であり、新たに1名、河野幸子さんが理事として新任されました。河野さんは、現在、当法人のグループホームのホームワーカーとしても活躍しておられ、日常の入居者へのかかわりの様子から、当法人の活動理念を十分に理解した支援が実行できていると理事会で評価され、今回、理事会から理事に推薦され、総会で承認されました。

その後の理事会において、理事の互選により、理事長に細谷要一理事が、副理事長に、鍋谷理事、桎理事がそれぞれ選任されました。

当法人の活動は、まだまだ知られていないところも多く、積極的に幅広い市民に対して、当法人の活動理念を広め、NPO法人としてのミッションを遂行していければと思います。

長期休日の支援体制について

ホームワーカー 河野 幸子

去る2018年1月5日、入居者が居室内で亡くなられていた状態（病死）で発見されるという出来事がありました。この事実を重く受け止め、私たち法人内で再発防止に向けた取り組みについて、理事会、運営委員会を数回開催し検討を行いました。その後、高松市障がい福祉課からは、発見が遅れたことを含めての改善策の提出を求められました。

これまで入居者の状況確認は、休日夜間等、職員が不在の時間帯に何か問題があれば入居者から電話をしてもらい、24時間体制で対応を行っていました。しかし今回のように、入居者自ら電話が出来ない状況が今後、在り得るかもしれません。そこで、このことを想定した上で4月から再発防止に向けて個別の体制を変更しました。

グループホームでは毎日、押印することになっています。このことは、「確かに、私は今日グループホームのサービスを受けました」という入居者が自ら意思表示をするためのものであり、押印できない場合は、入居者とホームワーカーがこまめに連絡を取り合い、問題がないことを確認し合うことが大切になります。そこで、押印について入居者との間でしっかりと確認を行いました。

また、平日は入居者と2日間会えなかった、連絡がなかった場合は、ホームワーカーが居室を訪問、もしくは電話等で連絡をとります。土日、祝日等の3連休以上になる場合は、職員2名が1組となりそれぞれがグループホーム2カ所を見回り、押印を確認します。押印がなく事前に連絡がない場合は、居室を訪問します。どうしても連絡がつかない場合は、職員が合流し、法人の規定に沿って、最終的には、居室内に入り状況を確認します。

緊急時の入室は入居契約の際に了解を得ており、常に迅速に対応出来るよう体制を整えました。

各グループホームの入居者には、上記の内容を文書化したもので説明し、話し合いを行いました。「わずらわしい」「有難い」と反応はさまざまでした。

今回の出来事は残念な結果でしたが、このことを無駄にはせず今後に生かし、サービス向上につなげていきたいと思います。

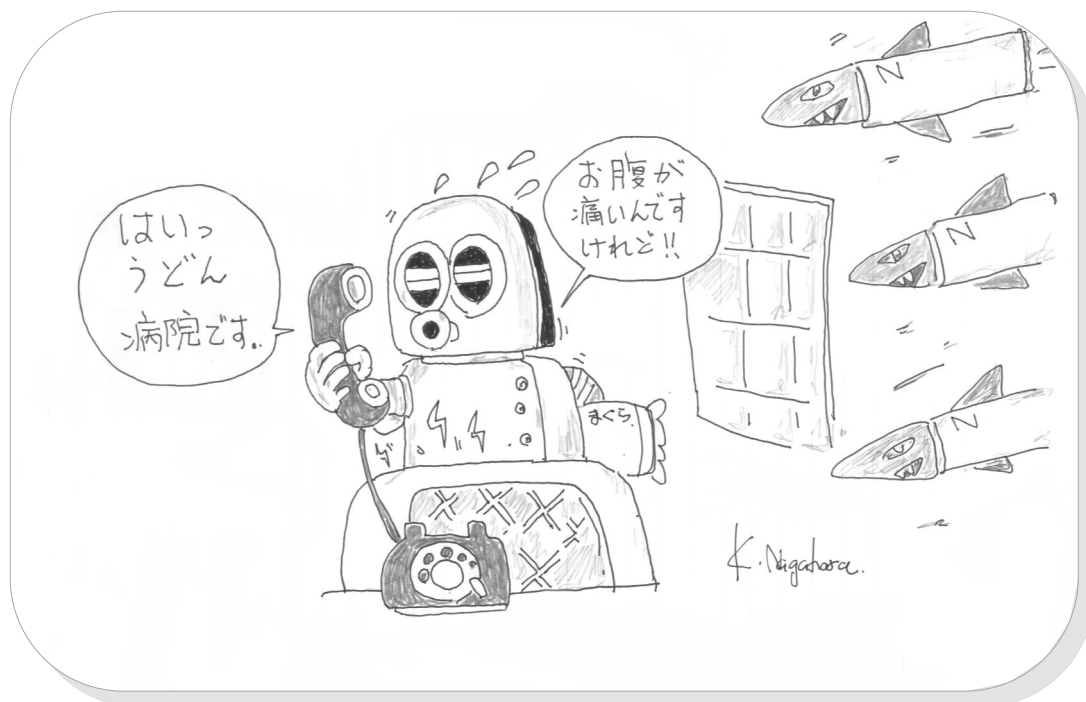
安否確認について

ボンカレー大好き
(ペンネーム)

私の入居するグループホームでも、安否確認が始まった。かつて私は、10年ほど前に部屋で盲腸が痛み出し、当時の世話人さんに病院に連れて行ってもらった。あやうく腹膜炎を併発するところだった。

また、心配性の私は昨年の北朝鮮のミサイルで、日本近海で戦争が起こるのではないかと、神経をすりへらした。両方とも、生命、暮らしに関わる重要な事だ。健康で安心に生活できる環境こそが、我々にとって一番尊い事ではないだろうか。

私は、今回の安否確認を機に、観念的に考えるのではなく、たとえ少しでも、より暮らしを送る為の、行動が出来たらいいなと思っている。



新生活を開始して1年を迎えて

フェレット巡査
(ペンネーム)

グループホームに入居して一年半が過ぎました。家にいた時は家の事情で友達を家に呼ぶこともなかなかまならなかったのですが、グループホームに入居してから友達を部屋に呼んで楽しくやっています。また家にそういう事情があり、家にいるときは病状も芳しくなかったのですが、グループホームに入居してから病状もずいぶんよくなりました。病院の方曰く「家から離れて自分を取り戻すのがあなたの回復に大事なことです」とのこと、グループホームというそれが可能な場所があって本当に良かったと思います。

ただ、体調がよくなりすぎてしまって、自分を過信して家のことをやりすぎてしまい、作業所の仕事に影響を出してしまったので、巷に出ている“時短”家事系の本を参考に、今後は家事と仕事そしてプライベートのバランスを取り、体調を崩さないように気を付けて、グループホーム生活を送れたらと思います。



入院生活とグループホーム生活の比較

M.K
(ペンネーム)

私の入院生活はつらかった。まず薄暗い檻の保護室から始まる。
食事は動物に餌をやるように少し隙間の開いた檻の下から出てくる。
トイレは看護師に言わなければ流してくれない。
患者の中には保護室に入るのが嫌で抵抗する人もいるが看護師が数人かけて保護室に入れさせる。
しかし、どうしても、入院しなければならない人も私は見てきた。
病気が原因で私生活を送るのが困難な人だ。
私を含めてみんな入院はしたくないと思う。

GH(グループホーム)生活は、
HW(ホームワーカー)がいつも入居者を支えてくれているが
服薬するのをいつもHWが管理してくれているわけでもない。
寝る時間をHWが管理してくれているわけでもない。
金銭管理にしても同じだと思う。
お金がでて(支給されて)、すぐにつかってしまえば、
後々苦しくなり生活ができなくなる。
お金がなくなり入院してしまう人もいと本で読んだこともある。
GH生活は自由がある反面、自己責任を持って生きる場所だと私は考えている。

編集後記

今回の二ズレターの発行は、編集委員会を構成し執筆及び編集を行ってきました。メリットとしては、二ズレターへの共通の思いが理解できたこと、幅広く記事の収集ができたこと、そして何よりも二ズレターに対してより関心がもてたことだと思います。

我々は、「NPOグループホームネット香川」に関わりながら、編集委員になるまでは時間を共にし、話し合う機会に恵まれませんでした。今回、機関誌発行に関してそれぞれの委員が率直な思いを述べることができたことは、成果の一つだと思います。

そして、何よりもうれしく感じたことは、入居者から寄せられた原稿です。入居者のもてる素晴らしい力を発見することができました。これらからはみなさんの存在を身近に感じつつ、対話を通して生活のし辛さを共有し、お互いの目指すところに近づけたらと思います。

我々編集委員はよちよち歩きではありますが、根気よく努力を続け、中身のある機関誌にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。(天満)

事務局からのお知らせ

会員および関係者の皆様には、今年度も引き続きよろしくお願いいたします。年度替わりにあたり、下記のお手続きのご確認をお願いします。

2018年度の会費の納入をお願いいたします。

- 会員の方には振込用紙を同封しています。すでに今年度分を納入済みの方は、行き違いとなりましたことをお詫びいたします。
- なお、会費の納入がなく3年間が経過しますと、会員資格が失効してしまいますので、会費の納入はお忘れのないようにお願いします。

ホームページの会員パスワードについて

毎年総会後に、HPの会員ページにログインできるパスワードのご案内を、機関誌ニーズレターと同封にて送付させていただいております。
会員パスワードは1年毎に更新されます。

正会員・賛助会員を募集しています

新規入会も随時受付しています。入会ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。手続きのご案内をいたします。

- ご入会いただいた方には、機関誌「ニーズレター」(季刊)をお送りし、またホームページの会員ページへにログインできるようになります。不定期ではありますが、会員の方が参加可能な研修も開催する場合があります。
- 正会員の方には、総会での議決権がございます。総会開催の2週間前までに郵送にてご案内をお送りします。

正会員 3,000円 賛助会員 2,000円

【百十四銀行】 中央市場支店 店番 213
普通預金 0252017
特定非営利活動法人 グループホームネット香川

【郵便局】 01670-4-5576
特定非営利活動法人 グループホームネット香川